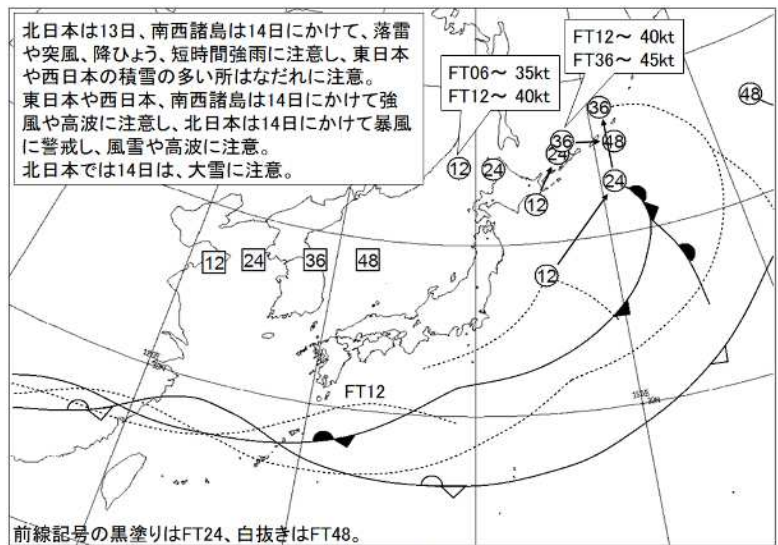


1. 実況上の着目点

- ① アムール川中流の500hPa5280m付近に-33℃以下の寒気を伴った寒冷渦があつて東進。寒冷渦を回る500hPa5400m付近のトラフに対応して、日本海に低気圧があつて東北東進。
- ② 500hPa5760m付近の正渦度移流に対応して、前線が華中から東シナ海にのびている。前線に向かって下層暖湿気（12日21時の名瀬の高層観測で850hPa θ_e 325Kを観測）が流入、東シナ海では対流雲が発達して雷を伴った激しい雨を解析。
- ③ 高気圧の西縁にあたる東日本太平洋側では、気圧の傾きが大きくなっているため南よりの風が強くなり、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦は13日夜にかけてオホーツク海へ進み、14日は千島近海へ進んで、寒冷渦を回る500hPa5400m付近のトラフが断続的に北日本を通過していく。北日本は13日は、寒冷渦や寒冷渦を回るトラフ、上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょうに注意。
- 1項①の低気圧は13日朝にかけて日本海北部へ進み、13日夜にかけて北海道地方に進んで不明瞭化。寒冷渦を回るトラフに対応して、13日朝までに襟裳岬の東海上で低気圧が発生して根室付近を北上、13日夜にはオホーツク海に進む。低気圧は寒冷渦の循環に取り込まれて動きが遅くなり、オホーツク海でループを描いて14日夜にかけて千島近海に進む。また、13日朝までに三陸沖で前線を伴った低気圧が発生、14日朝にかけて千島近海に進む。寒冷渦がオホーツク海に進む13日夜以降、北日本中心に下層寒気移流が強まって850hPa-6～12℃以下の寒気が流入、断続的に雪が降り、降雪量が多くなる所がある。北日本では14日は、大雪に注意。また、北日本中心に14日にかけて、1項①や2項①の低気圧、下層寒気移流の影響で気圧の傾きが大きくなり、非常に強い風が吹いて、しける所がある。特に奥羽山脈風下にあたる東北地方太平洋側の陸上では、14日にかけて風が強くなり、暴風となるおそれがある。14日にかけて、東日本では強風や高波に注意し、北日本は暴風に警戒し、風雪や高波に注意。
- ② 1項②の前線は、次第に日本の南にのび出し、14日にかけて華中～東シナ海～日本の南に停滞して前線上の波動が東シナ海に進む。前線に向かって850hPa θ_e 327K以上の下層暖湿気が流入、前線周辺の南西諸島を中心に大気の状態が不安定が続く。南西諸島中心に14日にかけて、落雷や突風、短時間強雨に注意。また、14日にかけて、日本海に移動する高気圧と前線との間で、気圧の傾きが大きくなるため、西日本や南西諸島では風が強くなり波が高くなる所がある。強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：北海道30cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北4、関東・伊豆諸島・北陸・九州南部・奄美3m。
- 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。